

令和6年度

事業報告

令和6年4月1日～令和7年3月31日

公益財団法人

ひと・健康・未来研究財団

令和 6 年度事業報告

(期間:令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日)

事業概況

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するために、健全な食生活と予防医学に重点をおいた研究、さらに自然との共生を基本に、こころの健康を目指した研究を振興し、もって国民の健康増進と生活の質の向上に寄与する。

公益事業として

- (公1)ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究調査事業を実施
- (公2)ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究に関する助成事業を実施

事業の内容

定款の第4条における 1、2、3 についてはいずれも研究調査事業の具体的な内容であり、事業としては一つと考えているため、公 1 にまとめている。

令和 6 年度(2024 年度)の活動実績の概要は以下の通り。

1. ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究調査事業(公益 1)

(1)「ひと・健康・未来」の研究調査事業

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するために、文科と理科の壁を取り払い知のプロンティアとして実施している。この事業は不特定多数の者の利益の増進に寄与することを目的としており、当財団役員が中心的な役割を果たし、その結果を公表している。

(1)－①研究会の推進(未来研究会の開催)

財団役員を含む科学者と外部の知の交流として、当財団役員の企画により実施している。令和 6 年度は第 59 回から 62 回までを実施した。日程、講師、テーマは以下の通り。

●第 59 回 未来研究会

日 程:令和 6 年 5 月 17 日(金)

講 師:小野 芳朗(元京都工芸繊維大学理事・副学長)

テマ:「風景の未来」

近代の風景が、誰によって何のために、いかに変わってきたのかを知ることは未来への示唆を生む。観光、土地の私有化、都市計画事業、地球温暖化などの影響をうける風景の何を守るか、何が有効かを、紹介と共に問題提起された。

●第 60 回 未来研究会

日 程:令和 6 年 9 月 11 日(水)

講 師:植田 和光(京都大学アイセムス特定教授／研究支援部門長)

テマ:「ABC タンパク質から学ぶ 健康に暮らすために大切なこと」

ヒトの身体にあるトランスポーター・ABC タンパク質の異常は動脈硬化症、糖尿病、痛風、統合

失調症、アルツハイマー病などを引き起こす。ABC タンパク質研究からわかった「健康に暮らすために大切なこと」が紹介された。

●第 61 回 未来研究会

日 程:令和 6 年 12 月 13 日(金)

講 師:八田 武志(名古屋大学名誉教授／関西福祉科学大学名誉教授)

テマ:「八雲研究での Super—agers」

北海道八雲町での八雲研究の資料から、Super—ager(エピソード記憶成績が中年期レベルを維持する 80 歳以上の高齢者／SA)を選び検討した結果が報告され、SA を目指すための要件が紹介された。

●第 62 回 未来研究会

日 程:令和 7 年 2 月 12 日(水)

講 師:田中 知明(千葉大学災害治療学研究所所長)

テマ:「災害治療学研究所のミッションとレジリエンス社会構築に向けた取り組み」

2019 年の令和元年房総半島台風の教訓から、急性期の災害対応、長期の避難生活における慢性期の治療学研究の重要性が明確となり、災害治療学研究所が発足された。行政や災害関連企業と連携し、より実践的な「災害治療学」推進の必要性が概説された。

(1) —②市民公開講座の開催

研究の成果をまとめ、市民公開講座「ひと・健康・未来シンポジウム」を開催し、公衆への啓蒙活動としている。開催については当財団役員を含む専門家が関与し、企画から運営にあたっている。参加は自由であり、参加費は無料。令和 6 年度の市民公開講座は、2 回開催した。コロナ禍から始まった「座談会シリーズ」を継続し、今年度は 1 回開催した。内容は財団機関誌に順次掲載していく。

●第 31 回ひと・健康・未来シンポジウム 2025 京都

・日 程:令和 7 年 1 月 11 日(土)

・会 場:ヒューリックホール京都

・企画者:中井 吉英 理事

・テマ:「人とのつながりを大切にする医療～緩和医療・サイコオンコロジー～」

・後 援:京都府、京都市、京都市教育委員会、京都新聞

・参 加:104 名(オンライン)

日本人の 2 人に 1 人はがんに罹患するといわれ、3 人に 1 人ががんで亡くなる。医療は治すことから、ケアする、あるいは治しつつケアする、に移行するが、ケアには多職種の連携が必要不可欠である。2 人の専門医と 1 人のがんサバイバーの立場より、テーマについてお話をいただいた。

●第 32 回ひと・健康・未来シンポジウム 2025 京都

・日 程:令和 7 年 3 月 2 日(日)

・会 場:ホテルグランヴィア京都 5F 古今の間

- ・企画者:乾 賢一 副理事長
 - ・テーマ:「薬あるところに薬剤師あり-信頼できる薬剤師があなたのそばにいますか? -」
 - ・後 援:一般社団法人京都府薬剤師会、京都府、京都市、京都市教育委員会、京都新聞
 - ・参 加:78名(オンサイト)
- 薬剤師には、患者に寄り添いながら、調剤のみならず、薬物療法への積極的な貢献が求められている。薬剤師、薬局について病院薬剤師、薬局薬剤師、患者の立場から講演いただいた。

●第6回 座談会シリーズ

- ・日 程:令和6年8月13日(火)
- ・企画者:明和 政子 理事
- ・テーマ:「AI 共生時代に必要となる人類の知性とそれを育む教育」
「人類の持続的発展に必要となる教育改革」、その羅針盤となる「AI 時代だからこそ必要となる次世代人類に求められる知性とは何か」について、脳科学、教育学、教育政策という多様な専門性から議論いただいた。

(1) –③成果の公開と出版事業(出版)

市民公開講座、未来研究会の成果をより多くの人々に周知するために、令和6年度は機関誌「ひと・健康・未来」を3回発刊し、講演内容他を掲載している。更に、ホームページ上で開催告知や機関誌のアーカイブをPDFファイルにして公開している。機関誌の掲載内容は以下の通り。

●「ひと・健康・未来」37号(令和6年7月発刊)

- ・特集:第29回シンポジウム「変貌する食と栄養 現代社会が問う 食べることの意味」
- ・座談会シリーズ第5回:「地球永住計画」
- ・第57回未来研究会:「21世紀に残された課題としての心不全」
- ・第58回未来研究会:「脳卒中対策の現状と未来」
- ・コラム:ひと健康と未来と—財団の窓から—「未来世代に期待する」

●「ひと・健康・未来」38号(令和6年11月発刊)

- ・特集:第30回シンポジウム「記憶に残し、未来を拓くー共に生きるためにー」
- ・スペシャルインタビュー:「気候変動と生物多様性問題にシステム論と政策科学で挑戦」
- ・第59回未来研究会:「風景の未来」
- ・コラム:学びの深化を愉しむ「未来研究会」

●「ひと・健康・未来」39号(令和7年3月発刊)

- ・特集:座談会シリーズ第6回「AI 共生時代に必要となる人類の知性とそれを育む教育」
- ・第60回未来研究会:「ABC タンパク質から学ぶ 健康に暮らすために大切なこと」
- ・第61回未来研究会:「八雲研究での Super-agers」
- ・令和6年度助成研究発表会報告
- ・コラム:学びの深化を愉しむ「スペシャルインタビュー」

(1) -④成果の公開と出版事業(ホームページ)

機関誌のアーカイブやイベント情報、研究助成の告知など、財団からの情報を発信する重要な媒体として位置付けている。より多くの方に有益な情報を届けするため、コンテンツの見直しを図り、今年度はホームページリニューアルを行った。これにより、新着情報やシンポジウムの内容などを速やかに、且つこれまでより充実した内容でお届けすることが可能となった。また、ホームページに研究助成の電子申請システムを構築し、応募者に容易に申請いただけるようにした(電子申請システムは2025年度から運用予定)。

(2)「ひと・健康・未来シンポジウム」の調査研究事業

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための調査研究と普及及び啓発事業。

こころ、健康、自然環境の情報の調査研究を行い、普及と啓発を行っている。

(2) -①情報の収集と公開講座の計画

財団役員の科学者を含むプロジェクトにおいて学術情報を収集するとともに他機関の研究者に呼び掛け、知識の普及と啓発を行うためにシンポジウムを計画した。

(2) -②市民公開講座の開催

年1回は、財団の拠点である京都で市民公開講座「ひと・健康・未来シンポジウム」を開催し、知識の普及と啓発を図っている。参加は自由であり、参加費は無料。令和6年度の開催は以下の通り。

●第30回ひと・健康・未来シンポジウム 2024 京都

- ・日 程:令和6年7月7日(日)
- ・会 場:ヒューリックホール京都
- ・企画者:畠中 宗一 理事
- ・テーマ:「記憶に残し、未来を拓くーともに生きるためにー」
- ・後 援:京都府、京都市、京都市教育委員会、京都新聞
- ・参 加:246名(オンライン:145名、オンライン:101名)

現代社会における記憶能力の低下は、「記憶の外部化」による記憶そのものの脆弱化が進んでいることを示すのではないか。作家・精神科医、人類学者というスタンスの違う2人の講演者に、「記憶」をキーワードに、講演、対話をいただいた。

(2) -③成果の公開と出版

市民公開講座の成果をより多くの人々に周知するために、テーマがまとまった段階で発表者の論文等を集め印刷物として出版している。当該市民公開講座は令和6年11月発刊の機関誌「ひと・健康・未来」38号において、講演内容を掲載した。また、ホームページ上で講座の開催告知や機関誌のアーカイブをPDFファイルにて公開中。

(3)海外諸団体との連絡協力のための調査研究事業

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための調査研究に関わる海外諸団体との連絡及び協力のための事業。こころ、健康、自然環境の調査研究に関する海外諸団体との連絡及び協力を進めている。

(3) –①海外諸団体との連絡協力

財団役員の科学者を含むプロジェクトにおいて海外研究者、諸団体との連絡と協力を進め、研究者に呼び掛けて連絡と協力をを行い、普及と啓発を行うために国際的な研究者によるフォーラムを計画、開催する。令和 6 年度は、役員から上記事業に関して、実施できる事業提案がなく行っていない。今後テーマのあり方について継続して協議を続ける

(3) –②公開講座の開催

調査研究テーマに関して、数年に 1 回「国際フォーラム」を開催し、知識の普及と啓発を図る。上記理由にて、令和 6 年度は実施していない。

(4) 共同研究と委託研究

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための基礎研究や臨床研究、さらに調査研究などを共同研究や委託研究により進める事業。健全な食生活と予防医学に重点をおいた研究、さらに自然との共生を基本に、こころの健康を目指した研究などを進める研究者と共同研究と委託研究を進める。

(4) –①共同研究と委託事業の推進

財団役員の専門家が上記に関連するテーマについて検討し、本財団の目的に適合する基礎研究や臨床研究を進めている研究者を検討し、共同研究または委託研究を行う。令和 6 年度は役員から、上記事業に関して、実施できる事業提案がなく、行っていない。今後、テーマのあり方について継続して協議を続ける。

(4) –②研究成果の公開

上記理由にて、令和 6 年度は実施していない。

(5) がんの温熱療法の調査と普及促進

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための調査研究のひとつとして、がんの温熱療法の普及促進のための調査と広報事業である。令和 6 年度は役員から、上記事業に関して、実施できる事業提案がなく、行っていない。今後テーマのあり方について継続して協議を続ける。

(5) –①情報収集活動

上記理由にて、令和 6 年度は実施していない。

(5) –②広報活動

上記理由にて、令和 6 年度は実施していない。

2. ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究に関する助成事業(公益 2)

(1) 「食品」、「環境」、「医学」、「福祉」をテーマとする公募による研究助成

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究に関する助成事業。

(1) –①研究助成の申請及び選考

上記に関するテーマにおいて、重要な研究であるが科研費等の公的予算がなかなか降りないような研究をサポートしたいと考えている。公募の申請書を元に財団選考委員会が選考する。令和 6 年度は公募(令和 6 年 4 月 1 日～4 月 30 日)、選考委員会(令和 6

年 6 月 27 日)を実施した。令和 6 年度の応募総数は 665 件であった。

採用件数 16 件(食品 2 件、環境 3 件、医学 8 件、福祉 3 件)、助成金総額は 1,300 万円。採用結果は以下の通り。

<食 品>採用件数:2 件

- ・「認知症モデルショウジョウバエに対するスパイスの治療効果の検討」

藤掛 伸宏／国立精神・神経医療研究センター 疾病研究第四部

- ・「心理社会的ストレスを緩和する機能性食品の開発に関する基礎研究」

豊田 淳／茨城大学 学術研究院 応用生物学野

<環 境>採用件数:3 件

- ・「未利用魚の可能性:健康な食と持続的な資源管理に向けた効果的な利用法の検討」

佐々木 俊介／早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター

- ・「健康的な地域の食景観とは?—「食の砂漠」論の地理学的拡張」

植淵 知哉／京都大学大学院 文学研究科

- ・「比江島重孝『かつぱ小僧』における民話採集と自然環境の意義」

稻井 智義／北海道教育大学 旭川校

<医 学>採用件数:8 件

- ・「認知症者の家族介護者に対するピアサポートの場の提供による健康関連 QOL の変化
—音声分析を用いた感情推定に関する検討—」

神谷 正樹／国立長寿医療研究センター リハビリテーション科部

- ・「画一的な認知症画像診断の普及に向けた基礎研究」

松本 圭一／広島市立大学大学院 情報科学研究科

- ・「子どもの窒息予防のための食支援プログラムの開発」

白水 雅子／京都光華女子大学短期大学部 歯科衛生学科

- ・「大規模ヒトコホートにおけるクローン性造血のマルチオミックス解析」

佐伯 龍之介／京都大学大学院 医学研究科

- ・「哺乳類 RNA 依存性 RNA ポリメラーゼが標的とする新規遺伝子の同定」

町谷 充洋／国立がん研究センター研究所 がん幹細胞研究分野

- ・「卵細胞の品質管理機構の解明と早期卵巣不全の治療応用に向けた実験モデルの確立」

伊藤 将／大阪大学 蛋白質研究所

- ・「脂肪毒性によるオートファジー停滞と細胞老化に着目した糖尿病関連腎臓病の

病態解明と治療応用」

南 聰／大阪大学大学院 医学系研究科

- ・「膵β細胞量の見える化と予防医学への展開」

村上 隆亮／京都大学 医学部付属病院

<福祉>採用件数:3件

- ・「地域福祉実践をめぐる「地域」像の協働的創出プログラムの開発
—郊外部における「対話の場」を通じた地域マインドマップ作成を核として—」
東根 ちよ／大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科
- ・「アバター間コミュニケーションと生成AIといった先端技術を活用した、
コロナ禍で顕現した多様な生徒の悩みに対応可能な保健室の実現」
中山 司／立命館大学 生命科学部
- ・「ヤングケアラーの孤立・孤独を防ぐための「ゆるやかなつながりの仕組み」の創出」
宮本 恭子／島根大学 法文学部

(1) - ②研究助成テーマの研究成果発表会の開催

研究助成を受けた研究成果の発表を行う。発表会には近隣の食品系、環境系、医学系、福祉系の大学を含めた各大学に招待状を送付し、参加費は無料である。令和6年度は、令和6年11月9日(土)に京都タワーホテル7階で、ポスター形式で開催した。研究発表会の概要は機関誌に掲載し、機関誌はホームページ上でアーカイブをPDFファイルにして公開している。

●第21回助成研究発表会

日 程：令和6年11月9日(土) 13:00～16:50

会 場：京都タワーホテル7階「橋」

発 表 者：18名

参加役員：8名

そ の 他：14名

3.評議員会及び理事会に関する事項

(1)令和6年5月14日開催 定例理事会 ※リモート併用会議による

議事内容	審議結果
令和5年度事業報告等	承認
令和5年度決算報告	承認
次回評議員会の招集	令和6年6月10日書面決議
令和6年度職務執行状況報告	理事長、副理事長より報告

(2)令和6年6月10日 定時評議員会 ※決議・報告の省略による全員同意

議事内容	審議結果
令和5年度事業報告等	理事長による報告
令和5年度決算報告	承認
令和6年度事業計画	理事長による報告
令和6年度事業収支予算	理事長による報告
令和6年度資金調達及び設備投資の見込み	理事長による報告
令和6年度選考委員選任	理事長による報告
監事選任	承認

(3)令和7年3月13日開催 定例理事会 ※リモート併用会議による

議事内容	審議結果
令和7年度事業計画案	承認
令和7年度事業収支予算案	承認
令和7年度資金調達及び設備投資の見込み	承認
令和7年度選考委員選出	選出
令和7年度職務執行状況報告	理事長、副理事長より報告

※本年度、決議・報告の省略の方法、リモート併用による開催の方法にて実施した。

以上